

令和5年5月25日

# 第1回総合教育会議記録

石巻市教育委員会

## 令和5年度第1回石巻市総合教育会議記録

◇開会年月日 令和5年5月25日（木曜日） 午後 3時00分開会

午後 3時54分閉会

◇開催の場所 本庁舎4階 庁議室

◇出席委員等 6名

市	長	齋藤正美君	教	育	長	宍戸健悦君
委	員	阿部邦英君	委	員	梶谷美智子君	
委	員	杉山昌行君	委	員	大和千恵君	

◇欠席委員 なし

◇説明のため出席した者の職氏名

（市長部局）

総務部長	阿部金也君	総務部次長	冨澤成久君
総務課長	木下智由君	総務課長補佐	高橋健之君
総務課主幹 （併任）	成澤和彦君	総務課主査 （併任）	平塚悦子君
保健福祉部長	橋本泰仁君	保健福祉部次長	佐藤政孝君
子ども保育課長	佐々木康夫君	子育て支援課長	津田まりえ君

（教育委員会事務局）

事務局長	鈴木憲君	事務局次長	今野良司君
事務局次長 （教育・文化 芸術振興担当）	工藤聖子君	教育総務課長	赤坂将人君
学校教育課長	福田光一君	学校管理課長	土田順平君
学校再編推進室	星憲君	生涯学習課長	水澤秀晃君
学校教育課長 補佐兼指導主事	佐藤広幸君		

◇協議・調整事項

- (1) 学力・体力向上対策について
- (2) 学びサポートセンターについて
- (3) (仮称) 石巻市幼児教育推進会議の設置について
- (4) その他

午後 3時00分開会

○総務課長（木下智由君） ただいまから令和5年度第1回石巻市総合教育会議を開催いたします。

本日の会議の司会は、総務部総務課長の木下が務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

開催に先立ち、報道機関の方より写真撮影の申出があります。本件につきましては、石巻市総合教育会議運営要綱第8条第5号のただし書の規定により、議長であります市長が会議に諮り、出席者の了解を得るものとされておりますので、議長からお諮りいただきたいと存じます。

○市長（齋藤正美君） それでは、皆様にお諮りいたします。

報道機関の方より写真撮影の申出がありました。石巻市総合教育会議運営要綱第8条第5号ただし書の規定により、いずれも許可することとしてよろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○市長（齋藤正美君） それでは、報道機関の皆様におかれましては写真撮影、録画、録音等をいずれも許可することといたします。

○総務課長（木下智由君） 報道機関の皆様におかれましては、会議の妨げとなるような行ないがないよう御協力のほど、お願いいたします。

---

#### 市長挨拶

○総務課長（木下智由君） それでは、初めに、齋藤市長から挨拶を申し上げます。

○市長（齋藤正美君） 皆さん、こんにちは。

本日は大変お忙しい中、御出席を賜りまして誠にありがとうございます。

令和5年度石巻市総合教育会議を開催するに当たりまして、一言御挨拶をさせていただきます。

本会議は、本市の教育の現状や課題に対する認識を共有し、重点的に講ずべき施策等について協議・調整を行うことにより、今後の施策の推進につなげる目的で開催するものです。

各事業の取組、方針等について、委員の皆様と協議を重ねながら、教育に関する共通認識を深めていきたいと考えております。

さて、本日の会議では、「学力・体力向上対策について」、「石巻市学びサポートセンターについて」、「（仮称）石巻市幼児教育推進会議の設置について」の3つを議題とさせていた

いただきました。3つの議題全てが本市の教育行政において大変重要な課題であり、教育委員会においては、改善・推進に向けた様々な事業や対応策を実施していただいているところでございます。昨年度開催されましたこの総合教育会議においては、小・中学校における学力・体力向上には、学びの土台をつくる幼児教育が重要であるとの意見をいただきました。

本日も委員の皆様からの忌憚のない御意見を頂戴し、今後の施策に取り入れ、教育行政をさらによい方向へと推進してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

令和5年5月25日、石巻市長、齋藤正美。

よろしくお願ひいたします。

---

### (1) 学力・体力向上対策について

○総務課長（木下智由君） 続きまして、次第の3、協議・調整事項に入らせていただきます。

ここからの会議の進行につきましては、市長にお願ひいたします。

○市長（齋藤正美君） それでは、会議の主催者である私の方で議長を務めさせていただきたいと思っておりますので、御協力のほどよろしくお願ひいたします。

では、1番目といたしまして、学力・体力向上対策についてを議題といたします。

学校教育課から説明をお願ひいたします。

学校教育課長。

○学校教育課長（福田光一君） では、初めに学力向上について説明させていただきます。

別冊1の石巻市学力向上プランに、昨年度の成果と反省、そして本年度の取組について記載しておりますが、その要点について資料1を使って説明させていただきます。

昨年度の成果についてですが、①の全国学力・学習状況調査の表を御覧ください。

国語の正答率ですが、小・中ともに向上いたしました。算数・数学については全国の正答率も下がっていますが、石巻市と全国との乖離は横ばい、石巻市と県との差は小・中ともに1ポイント差にまで縮まっております。

次に、②の標準学力調査についてですが、4月と12月に全小・中学校全学年で国語と算数・数学の調査を行いました。4月と12月を比較して達成率を向上させた学校の割合は、小・中ともに国語は60%以上に対して算数・数学は40%程度となりました。

これらの結果から、③に主な課題をまとめました。

1つ目は、自分で考えて解く問題が苦手であること。2つ目は、ゲームをする時間が長いな

ど時間の調整力が不足していること。そして3つ目は、算数・数学の苦手は小学校1年生から始まっているということです。特に小学校1年生の標準学力調査は12月に1回しか行っていませんが、達成率で全国平均を超えた学校の割合は40%でした。

このような成果と課題から、今年度は(2)の表の3つのポイントで取り組んでおります。ポイントの1つ目、学習意欲の向上については、標準学力調査で子供自身が自分の課題を客観的に把握し、その課題解決のための効果的なタブレットあるいはタブレットドリルの活用に取り組めます。

ポイント2の授業改善については、昨年度、全国平均を上回った学校の授業スタイルを全市に広げるために、指導主事や各地区の教科等指導員が実際に授業を見せるなどして授業改善を推進したいと考えています。

ポイントの3、基本的な生活習慣については、家庭での読書を意識した取組をさらに進めたいと考えます。また、昨年度、全小・中学校で保護者との教育相談を実施しました。特に小学校では初めての取組で、保護者の皆さんからは勉強の仕方が分かったとか学校との距離が縮まったなどの評価を得ました。今年度も継続するとともに、学校で習ったことや自分が読んだ本の内容を家の人に説明するなど、宿題の在り方を工夫して、児童・生徒と家族とのコミュニケーションの時間を増やす仕掛けをつくりたいと思っています。特にポイントの3、家庭との連携について教育委員会として取り組めるアイデアなど御意見をいただければと思います。

続けて、体力向上について説明いたします。

資料1の2ページになります。

(1)の表は、全国体力・運動能力、運動習慣の調査の結果ですが、令和3年度は体力合計が全国平均を上回りました。しかし、令和4年度については小・中学校ともに全国平均には至りませんでした。それでも長座体前屈や反復横跳びなど種目によっては全国平均を上回っているものもあり、これまでの成果は出ていると感じています。

課題としては、②にまとめましたが持久力不足であるということ、そして、石巻はおいしいものがたくさんあるので肥満傾向が高いということです。また、学力と同じように時間をコントロールする基本的な生活習慣にも課題があると考えています。

このような現状から、10年後の子供たちの姿をイメージした石巻市子どもの体力向上プランを策定しました。詳しくは別冊2になりますが、狙いとしては、積極的に体力向上に取り組み、望ましい生活習慣の確立に努める児童・生徒の育成になります。

資料1で、具体的なポイントの3つを(2)の表にしましたので御覧ください。

ポイントの1つ目は、体育の授業改善です。学校は学力向上と同様に運動に魅力を感じる授業を実践したいと考えています。

ポイントの2つ目は、食や健康に関する指導の充実です。児童・生徒が自分自身の成長に興味を持ち、成長している実感と健康であることの幸せを味わえる取組をしたいと考えています。具体的には、石巻専修大学と連携し、身体組成、つまり児童・生徒の体脂肪率や筋肉量を測定し、個に応じた体力づくりメニューや食事プランなどを考えることで健康な生活に主体的に取り組ませたいと考えています。

ちなみに、全国では小学校低学年や幼児の筋肉量が減っているというデータがあるようで、今年度は専修大との連携で石巻の子供たちのデータを取りたいと考えております。

ポイントの3として生活習慣の改善です。こちらも学力と同様に家庭を巻き込んだ運動機会の確保や、タブレットを活用した時間管理などに取り組みたいと思っております。特に令和5年度の取組については表の下段になりますが、児童・生徒は自分自身の体や体力を客観的に知ること、学校は主体的に運動に取り組む授業の方法を知ること、家庭は望ましい生活習慣や運動習慣の対策を知ること重点を置いて取り組んでまいります。学力向上と体力向上は両輪であると考えており、この実現には、やはり家庭の協力が必要不可欠です。学力向上と同じ課題にはなりますが、教育委員会として家庭あるいは地域を巻き込んだ活動で何か御意見があればお願いしたいと思います。

以上です。

○市長（齋藤正美君） ありがとうございます。

ただいまの説明について、御意見、感想、質問などありましたらお願いしたいと思います。いかがですか。

梶谷委員、お願いします。

○委員（梶谷美智子君） 学力向上に関してです。ただいまの説明で、全国学力・学習状況調査について、国語については前回より上がっている、算数については全国との乖離に変化はないということで、よい方向に向かっているのかなと思ったのですが、市で行っている標準学力調査について、特に算数については達成率が向上したのは40%程度だったということで、ここは非常に大きな課題であるというふうに思います。

今朝の新聞で、授業モデルを全市で共有して、本年度の方針ということで取り組んでいくと、一人一人を伸ばすということをキーワードに授業改善に取り組んで、子供たちに力を付けようということが載っておりました。この全市一斉変更の授業モデルというのに非常に期待すると

ころです。

そこで、本市では4月と12月に学力調査を行っているということですので、4月の調査は、いわゆる全学年で学んだことがどれだけかという調査だと思うのですが、その調査を指導にどう生かしていくかというところが一番大事なことです。指導のためには、その調査の結果を指導する側の教師が子供の課題、その子供一人一人の実態を把握する力をどうやって付けていくかという部分が大事だと思います。そのところを特に研修等で一人一人に教師側に力を付けていくことと、それを指導にどう生かしていくかという部分をつなげていかなければならないというふうに思いました。

課題の2つ目に、ゲームの時間が長い、学習時間が短いというような、いわゆる基本的な生活習慣が身に付いていないという説明がありましたけれども、やはり生活時間の中に学習や読書を組み込んで整った生活リズムをつくっていくということが大事だと思うのです。そのため協力に家庭をお願いしていくということが必要だと思います。整った生活リズムで、自分の生活の中に学習や読書の時間を組み込むということです。

先日、新聞に勉強の仕方が分からないという子供がこの3年間で随分増えたと。コロナの影響もあると思うのですが、例えば家庭学習でどうやって勉強したらいいか分からないとか、宿題という形で学習するというのもありますけれども、やっぱり上の学年になればなるほど自分を知って、そして、どう勉強していったらいいのか、上手な勉強の仕方というのを指導していくということが大事であり、この辺のところについても教師が指導をする力を付けていくということを大事にしてほしいと思いました。

それから、3つ目、算数の苦手は小学校1年生から始まっている。これもすごく大きな問題であると思いました。後で幼児教育の推進をしていくことについての推進会議の設置について説明があるわけですが、やはり幼稚園、保育所、こども園、そういったところから小学校へのつなぎの部分が難しい。そこを大事にしなくてはならないと思います。これは何回かお話しさせていただいているところですが、そのアプローチ、カリキュラムをつくっていくということが大事で、そして、それを全市で取り組んでいけるようにというふうには思いません。

ただし、このアプローチカリキュラムは小学校への適応を目的にして、知識、技能を一方的に教え込むのではなくて、やっぱり幼児期にふさわしい生活を通して、この時期ならではの資質や能力をしっかりと育て、小学校の生活や学びにつながるように工夫されたカリキュラムを市でつくっていくということが大事ではないでしょうか。これが幼児教育推進会議に望むとこ



ろであります。

以上です。

○市長（齋藤正美君） ありがとうございます。

ただいまの梶谷委員の御意見に対して、皆さん、どうですか。おっしゃるとおりだよ。今の御意見に対して、しっかりと取り組む方法を考えなくてはいけないですね。やらなくてはならないですよ。

○教育長（穴戸健悦君） はい、市長。

○市長（齋藤正美君） 教育長、お願いします。

○教育長（穴戸健悦君） 教師の指導する力、それから子供たちの現状を把握するその見る目というか、それをしっかり持ってなくてはならないというのはおっしゃるとおりだと思います。そのためにも、やはり一日一日の授業の中で子供たちがどんな様子なのかというのをしっかり見極めるということも必要だし、授業の中でそれをどう改善していくかということを検討しながら、授業改善に生かすということが必要だというふうに思います。

やはり教師は授業で勝負するという部分がありますので、授業の在り方をしっかりと学校の先生方が研究する、そして子供たちをしっかりと見ていくためにも、今回、教育委員会の方でも授業改善し、一時間一時間の授業をしっかりとつくっていきましょう。

その中でポイントにされているのは、先ほど話がありましたように考える問題が不得意だということで、これまでの授業がやはり教え過ぎというところがあったと思うのです。何でも先生が全部、授業でしゃべってしまって、これをただ覚えなさいというふうなのではなくて、全体に教えることをできるだけ少なくして、そして、その先を自分たちで検討しながら考えさせるという、そういう主体的に学ぶ姿というのを授業の中で構築する。そのときにタブレットがとても有効だというふうに言われていて、タブレットを使いながら自分たちで考えて、そして、お互いに検討して課題解決をしていくという、一時間一時間の授業がそういうふうな授業に変わっていくと、子供たちは意欲を持って取り組むようにもなりますし、一方的に教えられるのではなくて、自分たちで能動的に授業に進むことになります。

そういう意味で、今までの教えられる一方の授業ではなく、自分がどんどん能動的に取り組むような授業で進められればなというふうに思っております。協働的な学習ということで、今、市では取り組んでおります。授業改善も今のお話と併せてやっていきたいなというふうに思っているところです。

○市長（齋藤正美君） ところで、タブレットドリルを導入して成果はまだ出ていないのでは

ないの、こういう数値を見ると。親からの声として、タブレットを渡されても使い方が分からないという児童がまだいるみたいですね、実際のところ。だから、もっと掘り下げて、タブレットの使い方を徹底して教えないと。

数値を見るとタブレットを導入して幾らか前進しているのかなと思ったらそうでもなくて、我々が期待した成果はまだ出ていないなど。成果を出すためにはタブレットドリルをいかに使っていくか、興味を持たせるか、そのことにもしっかり取り組まないと意味がないなど思ったのです。

○教育長（宍戸健悦君） おっしゃるとおりだと思います。やったことがすぐに数値に出てくるというよりは、一時間一時間の授業の中で子供たちがタブレットを使います。それから、家庭でも使います。そういう積み重ねがやはり徐々に成果として出ていくものというふうに思っています。期間がまだ短いので、データとして出るまで、学校によってもばらつきがあるようです。小学校の低学年では、まだまだタブレットになじんでいない学校もあるように聞いていますので、さらに使いこなして、そして自分たちでやれるようにはしていかななくてはならないというふうに思います。

ただ、かなり進んでいる学校は進んでいますので、子供たちが画面をぱっぱっぱと動かしながら、我々にはできないような速さで次々に課題解決している様子も私も見てきましたので、ですから、横に展開していくということが必要だなというふうに思います。

○市長（齋藤正美君） そうですね。

大和委員、お願いします。

○委員（大和千恵君） 私も実際タブレット触ってみたりすることがあるのですがけれども、漢字だと正しく書けていなくても丸になってしまったり、大体似ていると丸になってしまったりと、タブレットに向いているものと向いていないものがあると思っている。現場の先生方は、実際に触っている子供たちの声を聞いて、今入っているプログラムがあると思うのですがけれども、やはり漢字は漢字ノートで練習した方が漢字の能力が上がるのではないとか、紙とタブレットを分けながら、よりよい方法を見つけていければいいのかなと思っております。

教育委員会の皆さん、教師の皆さん、学力向上のためにいろいろと考えてくださっているのだなということが分かったのですけれども、やはり家庭の意識というのは、まだまだ家庭によってその差がある。学力調査後に、個人個人の保護者にフィードバックをして、お子さんはここがちょっと苦手ですというのが返ってくるようになって、家庭での学習でもそこを一緒に見てあげたりというのが、少しずつできるようになってきている。やはり家庭での保護者の方々

の意欲というか、学習を学校だけに任せるのではなく、家庭学習のところは親も頑張っていくように、働きかけることもすごく重要になる。やっぱり全国と比べて差が出るのは、家庭での意識の違いもあるのかなと感じるので、私も子供と一緒に学力調査の問題を見たりもするのですけれども、やっぱり算数の一番最後の記述の問題は本当に難しいというか、状況、情景が頭に浮かばないと解けないような問題だったり、ただ計算が上手にできるだけではなくて謎解きのような、クイズとかなぞなどをたくさん解いていると、もしかしたら解けるのかなというような問題だったりもするので、ただ計算力を上げるだけではなくて、脳トレのような問題もたくさん解く機会があるといいのかなと思います。リスニングの問題が最近はあるというお話を聞いて、聞いて、それをメモを取って、その後回答するという問題は、やっぱりやったことないとなかなかうまくできなかつたりするので、授業の中でもそういうのを組み込んでいったりするといいのかなと感じました。

○市長（齋藤正美君） ありがとうございます。ほかにないですか。

教育長、どうぞ。

○教育長（宍戸健悦君） 思考、判断、表現というのを、考えて自分なりに書くということが求められているので、授業の中でも考えさせて、それをみんなと意見交換をしながら課題解決をするというふうな授業、やっぱり考える力というのは大切だというふうに思います。

先ほど整った生活リズムということを保護者と一緒につくっていくためにもというお話がありました。体力についても、運動と、食事、栄養ですね、運動と食事と、時間の管理と、そういうふうなところも体力向上には必須だと思うのです。それにつけても、やっぱり家庭と一緒にやってその辺は根気強くお話をしながら、一人一人の現状を共有していかなければならないかなというふうに思います。

もう1点、先ほど石巻市の達成率という話が、梶谷委員さんからありましたけれども、石巻の達成率は大体標準学力テストだと6割前後。6割から7割未満のところの達成率で、先ほどの40%という数値は1回目より2回目が上がったのが4割の学校だということなので、もっともっと上げていかななくてはならないというふうには思っています。

以上です。

○市長（齋藤正美君） ありがとうございます。よろしいですか。

（「はい」との声あり）

---

## （2）学びサポートセンターについて

○市長（齋藤正美君） それでは、次に2番目の石巻市学びサポートセンターについてを議題といたします。

学校教育課から説明をお願いいたします。

○学校教育課長（福田光一君） 学びサポートセンターについて説明いたします。

資料1の3ページをお開きください。

今年度4月にスタートしました石巻市学びサポートセンター、通称コイルについては順調にスタートし、4月下旬に市内全小・中学生にリーフレットを配布したところ、5月には相談件数が増加しました。

(1)の現在の状況の表は5月18日現在の件数と総利用者数になります。コイルの利用者が増えることは、不登校という視点ではあまり喜ばしいことではないのですが、今後さらに増加することが予想され、利用者の増加とともに現在いる指導員不足が課題になるかなというふうに思っております。

(2)に示した今年度の取組ですが、フリースクールとの連携、それから不登校の保護者会や不登校に係る研修会の開催を予定しています。さらに不登校対応のみならず、子供たちそれぞれの特性に応じた柔軟な対応によって、個別最適な学びの場を提供していきたいと考えています。

資料2にコイルの概要と昨年度の不登校の状況を載せましたので、参考にいただければと思います。御意見をよろしくをお願いいたします。

○市長（齋藤正美君） ありがとうございます。

だいたい今の説明に対して、御意見、感想、質問などありましたらお願いいたします。

阿部委員、お願いします。

○委員（阿部邦英君） (2)の令和5年度の取組の中で、スクールソーシャルワーカーの活用とあったのですが、これは不登校に関してとか、あるいは虐待問題に関してとかもですが、石巻市の今の総合教育センターで私は4年ほどお世話になったのですが、そのときに不登校の子供たちが何人かいて学校の手には負えないと、学校で行っても玄関を開けてくれないのだと。ちょうどSSW1人だけ市にいたのです。そこで、その人と一緒に御家庭を訪問しました。なかなかやっぱり玄関を開けてくれないのです。管理人さんが近くにいましたので、話を言ってお話ししたら、管理人さんの言うことは聞くのです。

SSWというのは家庭にも踏み込むことができるので、それでやっと玄関を開けてもらっていろいろとお話伺ったりもしてきたのですけれども、それをしてから幾らか登校できるように

なってきたといったようなことがありました。ぜひスクールソーシャルワーカーの活用をお願いするということです。これは非常にいい取組だなというふうに思いましたので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○市長（齋藤正美君） スクールソーシャルワーカーの活用が特に大事だということで、これをどうやって実践していくか。今、何人いるの。

○教育長（宍戸健悦君） 今8人おります。毎年1人ずつ増やして行って、今年は特にこの学びサポーターセンターが開設されたので、そのサポートセンターにもSSWが関わって、スクールカウンセラーと一緒にになって関わられるような体制をつくったので、そういう意味では恐らく県内でも一番人数は多いのではないかな、仙台市を除いて多く配置させていただいて、それぞれ地区割にして、そして回っていただいているというふうな現状であります。

○市長（齋藤正美君） 分かりました。

杉山委員、お願ひします。

○委員（杉山昌行君） この学びサポートセンターの取組、非常に重要なことだと思うのですが、資料2の1ページの目的のところでは、

（1）様々な理由で学校に行けなくなった児童・生徒についてということなのですが、学校に行けなくなる直前というか、その手前で悩んでいる子供たちにも、きちんと目を向けてあげなくてはならないと思うので、もちろん学校に行けなくなった子供たちは対応するのですが、恐らく不登校にカウントされないでいる、休みがちだけれども学校にまだ来れている、悪化すると来なくなるような状況というのがあると思うので、その段階からきちんと何とか手を打ってあげた方がいいなということで、どうすればいいのかというのはちょっと分からないのですが、相談に来るという部分で相談を、やっぱり不登校になる前の子供たちからも多分そのうち相談が来ると思うのです。あとは小・中学生にはリーフレットを配ったと思うのですが、保護者もこういうのがあると分かれば、保護者からの相談も増えると思うので、保護者に対する周知も何か考えて、もっとこういうのがあるのだよということを広めてほしいなと思ひます。

○学校教育課長（福田光一君） リーフレットは全家庭に配布して、オープンバージョンを今年度最初に配布しました。また、常時、先日アドバイスいただいたQRコードを入れたものを作成して、また配りたいと思っております。

それから、相談については、電話とメールでも行えるようにしておりますので活用してほしいなというふうに思ひます。おっしゃるとおり、やっぱり前兆というか、集団生活になかなか

なじめないというような子もいますので、そういう子についても、いわゆる学校生活に違和感を感じているような、頑張ってきているというところをやっぱり学校の先生がちゃんと見抜いて、そこをコイルの方に相談して保護者とつなげるというふうなところも実践していきたいなというふうに思います。

○市長（齋藤正美君） よろしいですか。

杉山委員、どうぞ。

○委員（杉山昌行君） 恐らく不登校にもいろんな理由があって、学校に起因することもあるれば家庭に起因することもあると思うのですが、例えば虐待とかDVの方の、教育委員会というよりは福祉の管轄になっている窓口に相談に行くお子さんや親御さんもいらっしゃると思うのですが、このコイルの資料をそちらに来た人にも渡すような連携が取れば良いかなと思います。

○市長（齋藤正美君） ありがとうございます。

梶谷委員、どうぞ。

○委員（梶谷美智子君） 2ページの不登校関係資料の出現率を見ると、コロナの影響で令和2年度は特別だと思うのですが、令和3年、令和4年と出現率が上がってきているということは、やはりコロナ禍で生活様式が変化したり、家庭もですが社会の不安とかそういったいろんなものが子供の意識や行動に影響しているのかなと。

そこで、杉山委員さんがおっしゃった完全に不登校ではないけれども、そういった心配のある子供への対応というのは本当に大事だと思いますし、それを教師側も見つける、把握する努力をしていかなければならないと思うのです。子供たちはすごくいろんなストレスを抱えていると思うのです。でも年齢が下になればなるほどストレスを抱えているとか、今ストレスを感じているというのは子供は自分では分からないので、そのストレスを少しでも和らげるような、自分で自分を上手に助けてあげられるような、そういったことをちょっとした知識として学ぶことができたかなというふうなことを思うのです。

というのは、東日本大震災の後、ストレスマネジメントの授業を行いますよという支援を受けたことがありまして、小学校の低学年でもやっていただきました。そういうストレスの多い子供たち、そして自分がストレスを感じていると気づかないでいる子供たちが、多いと思うのです。そういうストレスマネジメントというふうなことも授業として取り入れられたら、自分で上手に自分を助ける方法として身に付けられたらいいのかなというふうに、震災のときのそんなことを思い出してお話いたしました。

○市長（齋藤正美君） ありがとうございます。ほかにございませんか、よろしいですか。  
（「はい」との声あり）

○市長（齋藤正美君） なければ、次にいきたいと思います。

---

### （３）（仮称）石巻市幼児教育推進会議の設置について

○市長（齋藤正美君） （仮称）石巻市幼児教育推進会議の設置についてを議題といたします。  
学校教育課から説明をお願いいたします。

○学校教育課長（福田光一君） では、（仮称）石巻市幼児教育推進会議について説明いたします。

この会議については、最初にその必要性について説明をさせていただきます。全国や県の動向については資料３に載せております。ここでは資料１の３ページを使って石巻の状況を中心に説明させていただきたいと思っております。

（１）の現状と課題についてですが、コロナの影響も受け、幼児の語彙力や体力は全国的に低下傾向にあるようです。特に石巻市では、やはり幼児の肥満や虫歯の保有率が高く、こちらも幼児期から生活習慣の形成にも課題があると思われれます。また、少子化の影響により石巻市では幼稚園数が減少し、また働く保護者の増加により、こども園や保育所の需要が高くなっている傾向は全国と同様です。

このような現状を踏まえると、②の課題になりますが、これまでの幼稚園と保育所という枠を超え、子供たちが必ず入学する小学校での生活を視野にした幼児教育の展開が求められることとなります。そこで石巻市では本年度、幼児教育振興庁内連絡会議を発展させて、石巻市幼児教育推進会議を設置し、将来的には幼児教育を一元化できるような体制を整える計画を進めています。

４ページの（２）を御覧ください。

①の予定としましたが、石巻市幼児教育推進会議の柱を３つとし、１つ目は、先ほどの一元化できる体制を仮に幼児教育センターとし、その設置準備と設置後の運営に関わる協議を行います。２つ目は、小学校入学後の子供たちの姿をイメージした石巻市の幼児教育プランを策定いたします。３つ目は、公立、私立を問わず、幼稚園、こども園、保育所など幼児教育の指導、助言を行う立場の幼児教育アドバイザーの育成を行うこととなります。

①の石巻市幼児教育推進会議の設置と並行して、②今年度の取組としては、これまでコロナの規制でできなかった幼稚園、保育所の先生方の合同研修あるいは園児同士の交流を再開し、

幼児教育の充実を図ってまいりたいと考えています。

本日この場での御意見を幼児教育プランの参考にさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○市長（齋藤正美君） ありがとうございます。ただいまの説明に対して、御意見、感想、質問などありましたら、よろしくお願いいたします。

まず、幼児のうちから学ぶ姿勢を教えることなのよね。学びってどういうものかという、そこから入っていかないといけないのではないですか、そこが大事でしょう。ゲームをしながらとか、ここから学びを教えていくとか。

○教育長（穴戸健悦君） 小学校に入る前はいろんな遊びを通していろんな学びをしていくというのが基本にあるわけです。その遊びの中にいろんな要素を入れていくというふうなところが、今、基本的には必要なところだと思います。

○市長（齋藤正美君） 大和委員、お願いします。

○委員（大和千恵君） 私自身も市の幼稚園に子供を3人通わせていただいたのですが、やはり数を教えたり読み書きを教えるというよりは、例えば、お友達にお手紙を書く練習をしようという、文字を覚えるようになったり、昨年度だと金銭教育で自分たちでお店を開いて、それでお金のやり取りを学んだり、かっちり教育というよりは、小学校に入ったら嫌でも勉強しなくてはいけない時期になるので、幼稚園のうちには楽しみながら学ぶ土台をつくるというのをしていければいいのかなと思っています。

外で泥んこになって遊んだり、そういうお友達との関わり、他人を思いやる心を育てたり、そういう個としての土台づくりが、幼児教育の中でできると、小学校に入ったときにスムーズに勉強にも取り組んでいけるのかなと思うので、学ぶ楽しさだったり、できる楽しさだったり、工作とか創作とかも小学校に入ってから、すごく幼稚園での学びが生きているなど感じるものがたくさんあるので、早いうちから英才教育というよりは、遊びながらたくさん覚えることを覚えていくというのを市の幼稚園でも、ほかの幼稚園でもできると、保育所でもそうですけれども、いいのかなと感じます。

○市長（齋藤正美君） ありがとうございます。

梶谷委員、お願いします。

○委員（梶谷美智子君） 私もずっと小学校に勤めていて、幼稚園の園長というのをさせていただいたときに、幼稚園に行った当初は、幼稚園って遊んでばかりいて何しているのだろうと思ったのが正直なところなんです。でも、その遊びの中に、今大和委員さんがおっしゃったとおり



で、遊びを通して子供たちと協力したり、あるいは思いやりを持って接するとか辛抱強く頑張るとか、いろんなことに挑戦するとか、そういったものを遊びを通して身に付けていっているのだなということがだんだん分かっていきました。

幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿というのが国の方から示されたものがありますので、それを基にして架け橋プログラムを、先ほどの説明の幼児教育プランというのに関わっているのかと思うのですけれども、こういったものを石巻市で作成していくということは非常に大事なことかなと思っています。

そして、幼稚園や保育所の頃は、何したい、何して遊ぶ、何したいのというので、自分でこれしたい、あれしたいということができましたけれども、それが学校に行くと、さあ、これをしましょうというふうに変わっていくわけです。そうすると、やっぱりそのギャップでつまずいてしまう子供もいると思うのです。小学校では、幼稚園の遊びというのがどんな意味があって、子供たちがどういうふうにごろごろしているかというのを小学校の方で見るということが大事で、そういう機会があったらなというふうに思います。

他県の例ですけれども、長期研修として幼稚園に小学校の教員が研修に行って、その幼児教育を学び、それを小学校の最初の指導、導入期の指導に生かしていく、小1プロブレムの問題であるとか、そういったものの解消ということで、そういった取組をしているところもあります。ちょっと長期研修に出すというのは難しいとは思いますが、小学校の先生は幼稚園や保育所、こども園の子供たちの遊びの様子、どんな保育をしているのかというのを見に行く機会、そういったものが持てたらいいなというふうに思います。

○市長（齋藤正美君） 分かりました。ありがとうございます。よろしいですか。

教育長、どうぞ。

○教育長（宍戸健悦君） 私から1つ、この場でお話ししたいのが、先ほどの課長の説明にも幼稚園の入園希望者が少なくなっているということで、市の方でも幼保一元化といって保育所と幼稚園を一元化してこども園化してきているので、数年後、幼稚園はなくなる方向になります。そうすると、保育所、こども園は福祉部の担当になってくる。その福祉部の方から小学校に上がってくる。なので福祉部と教育委員会がしっかりと連携して、そこで一連の子供たちの育ちを協働して見ていくということで、それで先ほどのアドバイザーというのを教育委員会の方で県教委と連携しながら要請をして、将来的には保育所やこども園を回って、小学校に行くところですよ、あるいはアプローチプログラムについての考え方であるとか、そういうのを指導してもらおうという連携をして子供たちを育てていく一つのツールとして、そのアドバイ

ザーというのを考えているところなのです。やっぱり福祉部との連携というのはとても重要になってくるというふうに思っています。

○市長（齋藤正美君） 少子化の影響で日本全国、幼保一体化、そして、こども園への移行、こういうふうに大体なりつつあるのでしょうか。先進地事例で一番うまくいったところ等を参考にしながら、その辺の調査もしながら進めていきましょう。それが大事ですよ。

○教育長（宍戸健悦君） はい。働きながら子育てしやすい環境というのは、もう必須なので、その中でいかに質の高い保育環境、そして学びの環境をつくっていくかというのが重要だというふうに思います。

○市長（齋藤正美君） 先日、こども家庭庁の生育局長の藤原さんに、宮城県に出向していたときに知っていたことから、御挨拶に行ってきたが、いっぱいやることあり過ぎて、どう支援をしていくかというようなことを言っていました。その中にこども園の持っていく方であるとか、幼保一体化をどうしていくかとか、そういうのも全部入っているそうです。いろいろな方法あったら教えてなんていうのは言っておいたけれども、この幼児教育についての推進会議ですか、この設置というのは新しい取組であり、これがこれからポイントになっていくと思うので、これをいろんな角度からまず推し進めていかななくてはならないなと思うので、よろしくお願ひしたいと申ひます。よろしいですか。

阿部委員、どうぞ。

○委員（阿部邦英君） 感想なのですけれども、今、市長さんおっしゃったとおり、こういう幼児教育の充実というのを掲げておいて、これまで具体的なアクションプランがなかったのですけれども、今回このように推進会議の設置とか、あるいは幼児教育センターの開設というようなことをアクションプランとして実際に起こして、これから取り組もうということに対して大変いいことだなと申ひます。ひとつよろしくお願ひしたいと申ひます。

○市長（齋藤正美君） みんなで進めていきましょう。いろいろお知恵を拝借してやりましょう。よろしくお願ひしたいと申ひます。よろしいですか。

（「はい」との声あり）

○市長（齋藤正美君） ありがとうございます。

学力・体力向上対策、学びサポートセンター、（仮称）石巻市幼児教育推進会議の設置等についての御意見、それから感想等を頂戴しましてありがとうございます。

---

#### （４）その他

○市長（齋藤正美君） そのほか、教育委員の皆さんから何かこの際お話ししておきたいというの、何かありませんか。よろしいですか。

（「はい」との声あり）

○市長（齋藤正美君） その他、各部長、課長から何かございませんか。よろしいですか。

（発言する者なし）

○市長（齋藤正美君） それでは、本日は「学力・体力向上対策について」、「石巻市学びサポートセンターについて」、「（仮称）石巻市幼児教育推進会議の設置について」、皆さんのお考えを伺う機会となりました。本当に貴重な御意見、感想等を頂戴しましたことを厚く御礼申し上げます。

今後も、この総合教育会議を通じて教育委員会との意思疎通を図っていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

では、以上で協議・調整事項を終了し、事務局に戻したいと思ひます。

○総務課長（木下智由君） それでは、以上をもちまして、令和5年度第1回石巻市総合教育会議を閉会いたします。

大変お疲れさまでした。

午後 3時54分閉会

---

石巻市長 齋藤正美  
教育長 宋戸健悦